

令和4年度の広島県における生徒指導上の諸課題の現状について

1 要旨・目的

文部科学省が、「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」を公表したことを受け、本県の状況を取りまとめた。

2 現状・背景

児童生徒の問題行動等について、広島県内の状況を調査・分析することにより、学校における生徒指導上の諸課題の改善に向けた取組の充実を図り、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応につなげていく。

3 概要

(1) 調査対象

県内の国公私立小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校・中等教育学校

(2) 調査期間

令和4年度

(3) 調査結果

別紙のとおり

(4) 課題分析

- 令和4年度は、暴力行為発生件数、いじめ認知件数、長期欠席児童生徒数及び不登校児童生徒数、中途退学者数のいずれにおいても、前年度と比較して増加している。
- 暴力行為発生件数は、小・中学校ともに増加しているが、特に、中学校の増加率が高くなっている。増加の要因について、市町教育委員会からの聴き取りによると、家庭環境や友人関係といった人間関係が起因する不安や悩みがきっかけとなり、感情をコントロールすることができず、友人の筆箱を床に投げることや、「ぶつかる」などの身体接触を伴うものまでを幅広く計上したことが挙げられた。
- 日々の教育活動において、いじめや重大な事態を未然に防止することを目的とし、教職員が丁寧に児童生徒に関わり、軽微な行為について計上したことも、暴力行為の発生件数が増加したことの要因であると考えている。

○ いじめの認知件数は増加している。各学校におけるいじめの発見のきっかけは、「本人の訴え」「保護者の訴え」が増加しており、計画的、定期的な面談やスクールカウンセラー等の専門家との連携により、安心して相談できる教育相談体制が機能していることも、積極的な認知につながっていると考えている。また、各学校が感染症対策を行いながら、部活動や学校行事等の様々な活動が再開されたことにより、人と関わる機会が増えたことも一因であると考えている。

○ 不登校児童生徒数は、全校種で増加している。主たる要因として、無気力・不安といった本人に係る状況、友人関係を巡る問題といった学校に係る状況、さらには家庭に係る状況など多様なものが挙げられていることから、個々の状況に応じたきめ細やかな支援が必要である。

(5) 今後の対応

○ 暴力行為については、児童生徒が感情をコントロールする力や対人関係スキルを身に付けるため、特別活動や道徳科の授業、学級経営等において、児童生徒同士が積極的に意見を交わし、合意形成を図る活動等を進め、共感的な人間関係をつくるための取組を支援する。また、課題に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を加えた校内支援チームを編成することや、関係機関等と連携し、課題が生起する背景を丁寧に探ることや、児童生徒一人一人の特性を踏まえた、計画的・組織的・継続的な指導・支援を行う。

○ いじめについては、いじめが生まれる構造といじめの加害者の心理を明らかにしたうえで、全ての児童生徒が「いじめに向かわない」態度を身に付けるような働きかけを生徒指導はもとより、各教科での学習、道徳科や特別活動などを通じて、いじめの未然防止に係る取組の一層の充実を図る。

○ 不登校の未然防止と不登校等児童生徒の社会的自立への支援に向け、多様な学びの場の選択肢の一つとしてSSRやスクールエスを設置して支援を行っているところであり、より魅力的な居場所、成長できる場となるよう更なる充実を図るとともに、個々の状況に応じたきめ細やかな支援の在り方や考え方を市町の教育支援センターや学校などに普及していく。

4 その他（関連情報等）

県ホームページ

令和4年度の広島県における生徒指導上の諸課題の現状について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/r04syokadaitop.html>

令和4年度の広島県における生徒指導上の
諸課題の現状について

令和5年10月

広島県教育委員会

目 次

令和4年度の広島県における生徒指導上の諸課題の状況について（概要）	1
生徒指導上の諸課題の年次推移（H30年度～R4年度）	2
国公私立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）における暴力行為発生件数等の年次推移（H30年度～R4年度）	4
国公私立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）・特別支援学校におけるいじめ認知件数等の年次推移（H30年度～R4年度）	5
国公私立小・中学校における長期欠席者数等の年次推移（H30年度～R4年度）	6
国公私立小・中・高等学校（全日制・定時制）における不登校児童生徒数等の年次推移（H30年度～R4年度）	7
国公私立高等学校（全日制・定時制・通信制）における中途退学者数等の年次推移（H30年度～R4年度）	8

※小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。以下同様。

令和4年度の広島県における生徒指導上の諸課題の状況について（概要）

1 暴力行為の発生件数

- (1) 国公立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）の合計は3,537件で、前年度と比較すると490件（16.1%）増加した。
- (2) 校種別に前年度と比較すると、小学校では2,243件で278件（14.1%）増加、中学校では1,159件で200件（20.9%）増加、高等学校では135件で12件（9.8%）増加した。
- (3) 令和3年度（3,047件）のピークと比較して、490件（16.1%）増加した。
- (4) 小学校において6年連続増加した。

2 いじめの認知件数

- (1) 国公立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）・特別支援学校の合計は5,961件で、前年度と比較すると227件（4.0%）増加した。
- (2) 校種別に前年度と比較すると、小学校では4,229件で75件（1.8%）増加、中学校では1,555件で167件（12.0%）増加、高等学校では163件で13件（7.4%）減少、特別支援学校では14件で2件（12.5%）減少した。
- (3) 平成30年度（7,435件）のピークと比較して、1,474件（19.8%）減少した。

3 長期欠席者数

- (1) 国公立小・中学校の合計は12,364人で、前年度と比較すると2,560人（26.1%）増加した。
- (2) 校種別に前年度と比較すると、小学校では5,517人で1,204人（27.9%）増加、中学校では6,847人で1,356人（24.7%）増加した。
- (3) 令和3年度（9,804人）のピークと比較して、2,560人（26.1%）増加した。
- (4) 小学校では10年連続、中学校では9年連続増加した。

4 不登校児童生徒数

- (1) 国公立小・中・高等学校（全日制・定時制）の合計は9,130人で、前年度と比較すると1,884人（26.0%）増加した。
- (2) 校種別に前年度と比較すると、小学校では2,759人で697人（33.8%）増加、中学校では4,678人で977人（26.4%）増加、高等学校では1,693人で210人（14.2%）増加した。
- (3) 令和3年度（7,246人）のピークと比較して、1,884人（26.0%）増加した。
- (4) 小学校では7年連続、中学校では9年連続増加した。

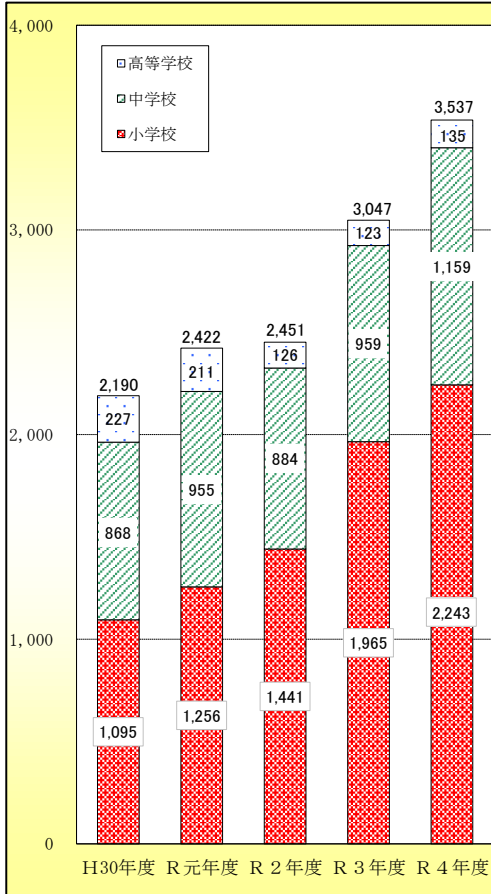
5 中途退学者数

- (1) 国公立高等学校（全日制・定時制・通信制）の合計は888人で、前年度と比較すると27人（3.1%）増加した。
- (2) 平成18年度（1,870人）のピークと比較して、982人（52.5%）減少した。

生徒指導上の諸課題の年次推移（H30年度～R4年度）

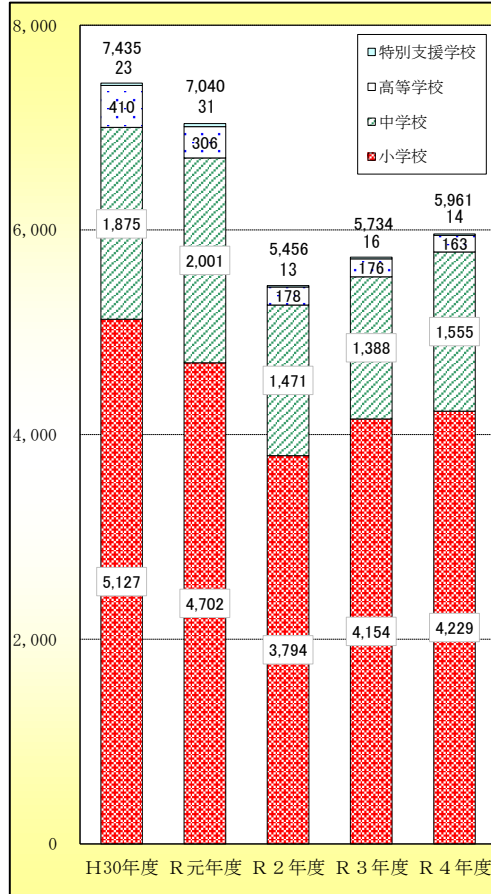
1 暴力行為の発生件数（件）

国公立小学校、中学校、高等学校（全日制・定時制・通信制）の合計



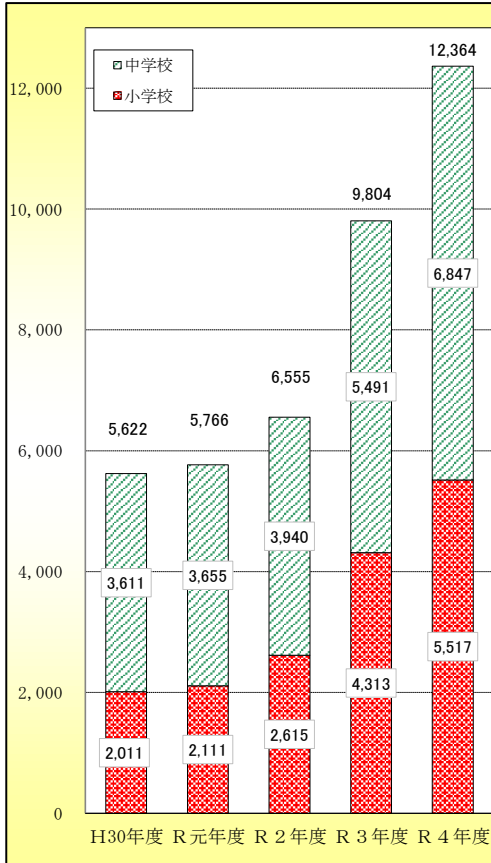
2 いじめの認知件数（件）

国公立小学校、中学校、高等学校（全日制・定時制・通信制）、特別支援学校の合計



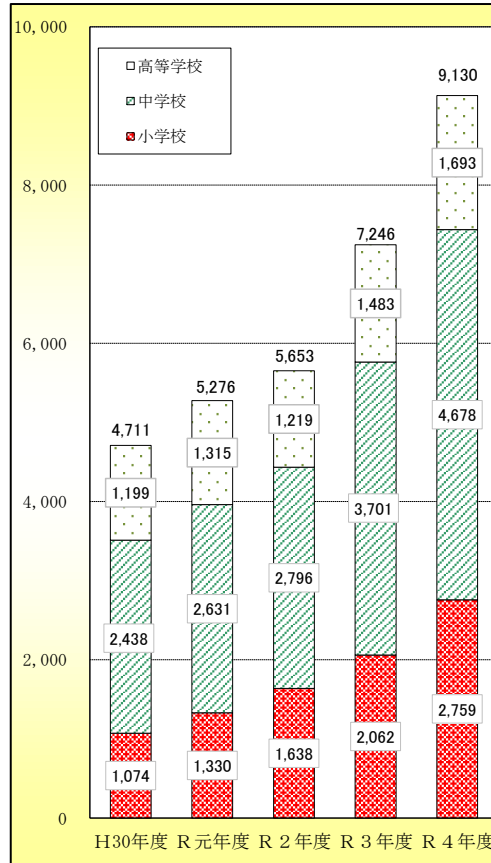
3 長期欠席児童生徒数（人）

国公立小学校、中学校の合計



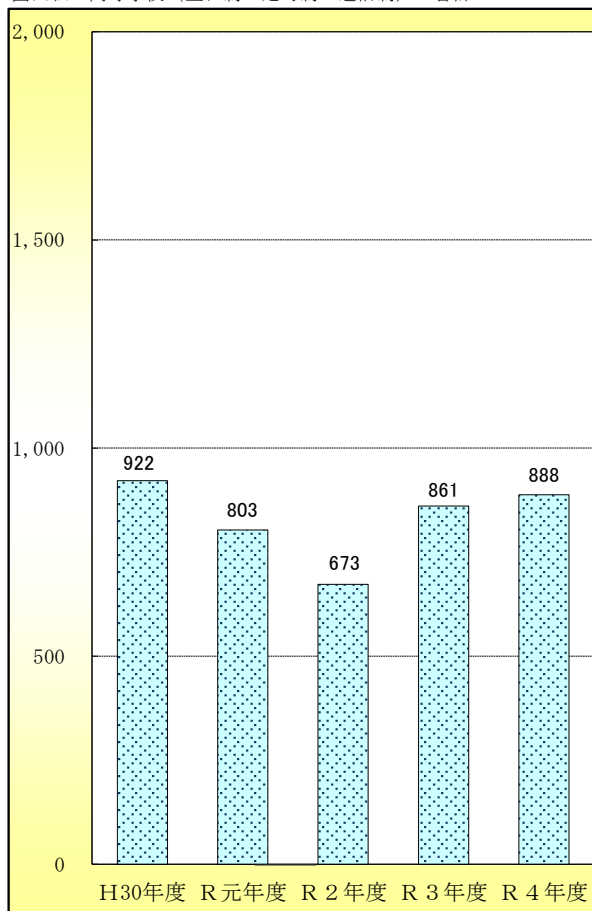
4 不登校児童生徒数（人）

国公立小学校、中学校、高等学校（全日制・定時制）の合計



5 中途退学者数（人）

国公立高等学校（全日制・定時制・通信制）の合計



本県の国公立学校における生徒指導上の諸課題のこれまでのピークとの比較

区分	これまでのピーク		令和4年度	増減	
	年度	発生（認知） 件数・人数	発生（認知） 件数・人数	発生（認知） 件数・人数	割合 $(b-a)/a \times 100$
		a	b	b-a	
暴力行為	令和3年度	3,047件	3,537件	490件	16.1%
いじめ	平成30年度	7,435件	5,961件	△1,474件	△19.8%
長期欠席	令和3年度	9,804人	12,364人	2,560人	26.1%
不登校	令和3年度	7,246人	9,130人	1,884人	26.0%
中途退学	平成18年度	1,870人	888人	△982人	△52.5%

※国公立の小・中・高等学校での暴力行為、いじめの調査は平成18年度から実施

※国公立高等学校の不登校の調査は平成16年度から実施

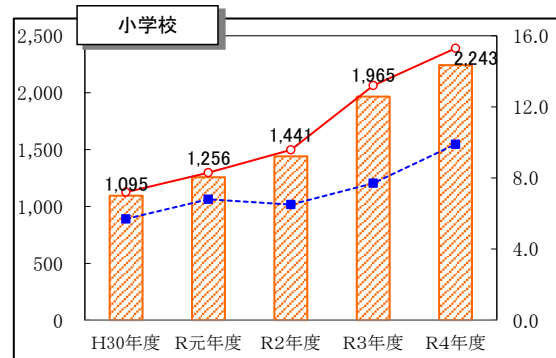
※国公立高等学校の中途退学の調査は平成17年度から実施

暴力行為

国公立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）における暴力行為発生件数等の年次推移（H30年度～R4年度）

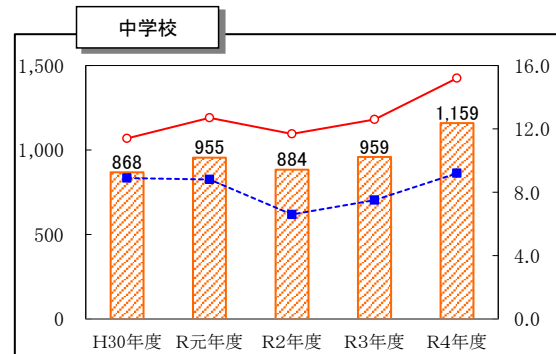
小学校

区分	発生件数		1,000人当たりの発生件数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	1,095	7.2	5.7
令和元年度	1,256	8.3	6.8
令和2年度	1,441	9.6	6.5
令和3年度	1,965	13.2	7.7
令和4年度	2,243	15.3	9.9



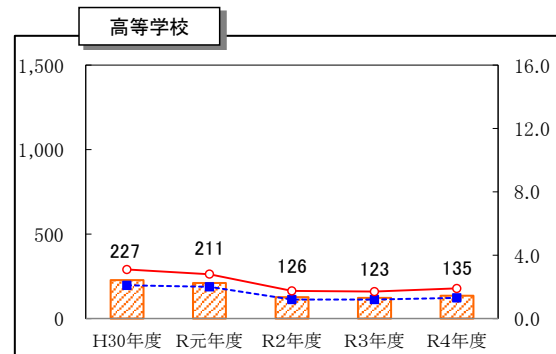
中学校

区分	発生件数		1,000人当たりの発生件数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	868	11.4	8.9
令和元年度	955	12.7	8.8
令和2年度	884	11.7	6.6
令和3年度	959	12.6	7.5
令和4年度	1,159	15.2	9.2



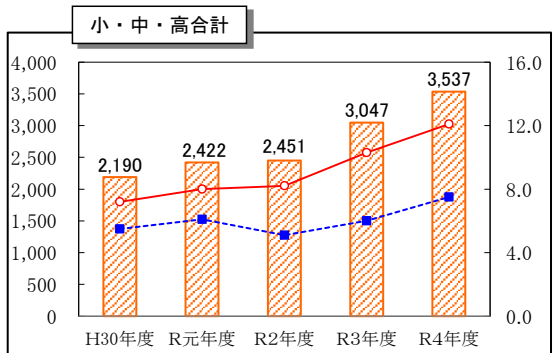
高等学校

区分	発生件数		1,000人当たりの発生件数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	227	3.1	2.1
令和元年度	211	2.8	2.0
令和2年度	126	1.7	1.2
令和3年度	123	1.7	1.2
令和4年度	135	1.9	1.3



小・中・高合計

区分	発生件数		1,000人当たりの発生件数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	2,190	7.2	5.5
令和元年度	2,422	8.0	6.1
令和2年度	2,451	8.2	5.1
令和3年度	3,047	10.3	6.0
令和4年度	3,537	12.1	7.5



※ 凡例共通

- 広島県（国公立）〈発生件数〉
- 広島県（国公立）〈1,000人当たりの発生件数〉
- 全国（国公立）〈1,000人当たりの発生件数〉

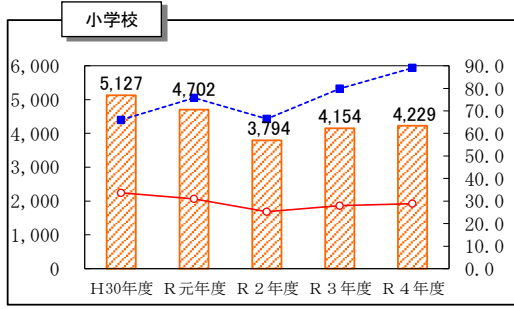
(注) 1,000人当たりの発生件数は、小数第二位を四捨五入している。

いじめ

国公立小・中・高等学校（全日制・定時制・通信制）・特別支援学校における
いじめ認知件数等の年次推移（H30年度～R4年度）

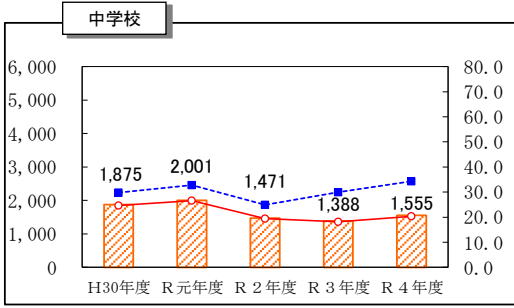
小学校

区 分	認知件数	1,000人当たりの認知件数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	5,127	33.6	66.0
令和元年度	4,702	31.0	75.8
令和2年度	3,794	25.2	66.5
令和3年度	4,154	27.9	79.9
令和4年度	4,229	28.9	89.1



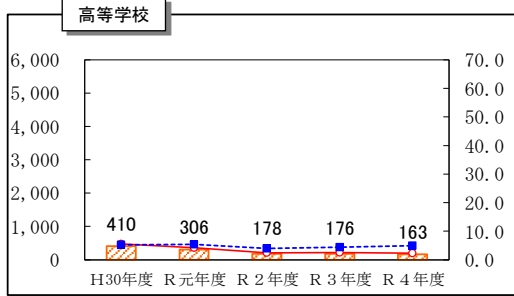
中学校

区 分	認知件数	1,000人当たりの認知件数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	1,875	24.7	29.8
令和元年度	2,001	26.6	32.8
令和2年度	1,471	19.5	24.9
令和3年度	1,388	18.2	30.0
令和4年度	1,555	20.4	34.3



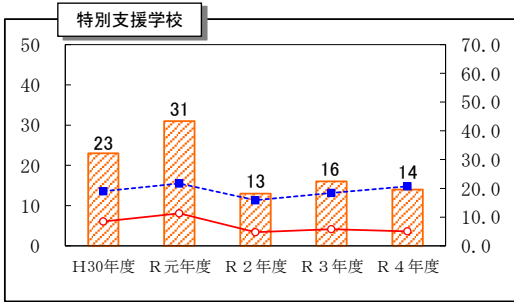
高等学校

区 分	認知件数	1,000人当たりの認知件数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	410	5.5	5.2
令和元年度	306	4.2	5.4
令和2年度	178	2.5	4.0
令和3年度	176	2.5	4.4
令和4年度	163	2.3	4.9



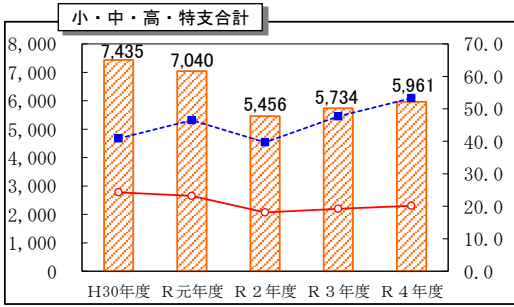
特別支援学校

区 分	認知件数	1,000人当たりの認知件数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	23	8.5	19.0
令和元年度	31	11.3	21.7
令和2年度	13	4.8	15.9
令和3年度	16	5.8	18.4
令和4年度	14	5.0	20.7



小・中・高・特支合計

区 分	認知件数	1,000人当たりの認知件数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	7,435	24.3	40.9
令和元年度	7,040	23.2	46.5
令和2年度	5,456	18.1	39.7
令和3年度	5,734	19.2	47.7
令和4年度	5,961	20.1	53.3



※ 凡例共通

- 棒グラフ（オレンジ色） 広島県（国公立）〈認知件数〉
- 折れ線（赤色） 広島県（国公立）〈1,000人当たりの認知件数〉
- 折れ線（青色） 全 国（国公立）〈1,000人当たりの認知件数〉

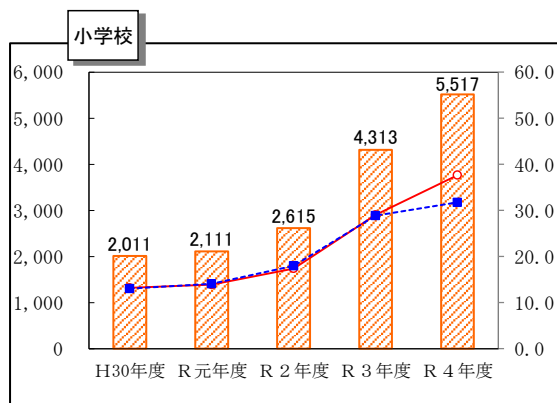
（注） 1,000人当たりの認知件数は、小数第二位を四捨五入している。

小・中学校長期欠席

国公立小・中学校における長期欠席者数等の年次推移（H30年度～R4年度）

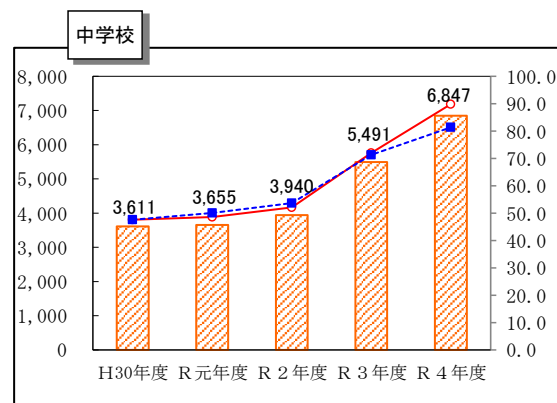
小学校

区分	長期欠席児童数		1,000人当たりの長期欠席児童数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	2,011	13.2	13.0
令和元年度	2,111	13.9	14.1
令和2年度	2,615	17.4	18.0
令和3年度	4,313	29.0	28.9
令和4年度	5,517	37.7	31.7



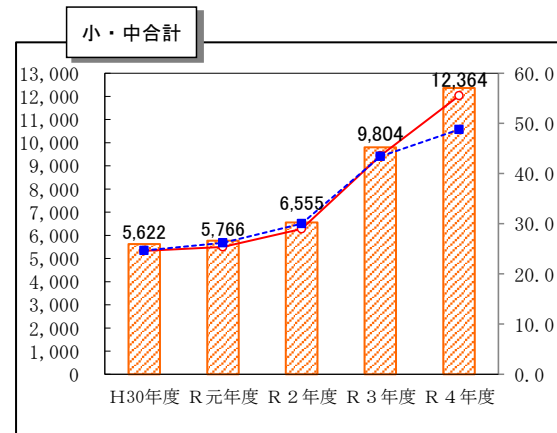
中学校

区分	長期欠席生徒数		1,000人当たりの長期欠席生徒数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	3,611	47.6	47.6
令和元年度	3,655	48.6	50.1
令和2年度	3,940	52.1	53.6
令和3年度	5,491	72.0	71.3
令和4年度	6,847	89.8	81.3



小・中合計

区分	長期欠席児童生徒数		1,000人当たりの長期欠席児童生徒数
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)
平成30年度	5,622	24.6	24.7
令和元年度	5,766	25.4	26.2
令和2年度	6,555	29.0	30.0
令和3年度	9,804	43.6	43.4
令和4年度	12,364	55.5	48.8



※ 凡例共通

- 広島県（国公立）〈長期欠席児童生徒数〉
- 広島県（国公立）〈1,000人当たりの長期欠席児童生徒数〉
- 全国（国公立）〈1,000人当たりの長期欠席児童生徒数〉

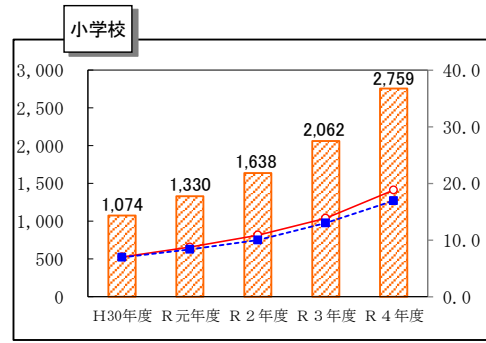
(注) 1,000人当たりの長期欠席児童生徒数は、小数第二位を四捨五入している。

不登校

国公立小・中・高等学校（全日制・定時制）における不登校児童生徒数等の
年次推移（H30年度～R4年度）

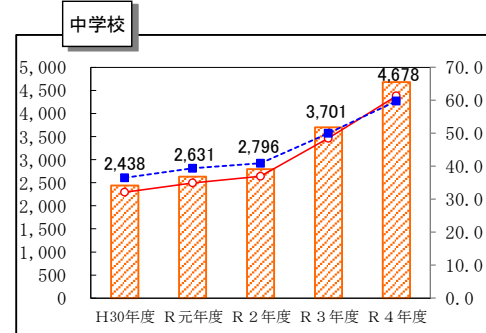
小学校

区分	不登校児童数		1,000人当たりの不登校児童数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)	
平成30年度	1,074	7.0	7.0	
令和元年度	1,330	8.8	8.3	
令和2年度	1,638	10.9	10.0	
令和3年度	2,062	13.9	13.0	
令和4年度	2,759	18.8	17.0	



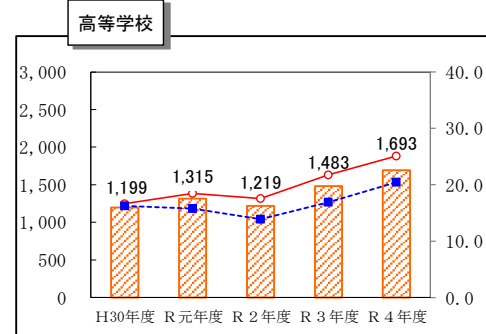
中学校

区分	不登校生徒数		1,000人当たりの不登校生徒数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)	
平成30年度	2,438	32.1	36.5	
令和元年度	2,631	34.9	39.4	
令和2年度	2,796	37.0	40.9	
令和3年度	3,701	48.5	50.0	
令和4年度	4,678	61.4	59.8	



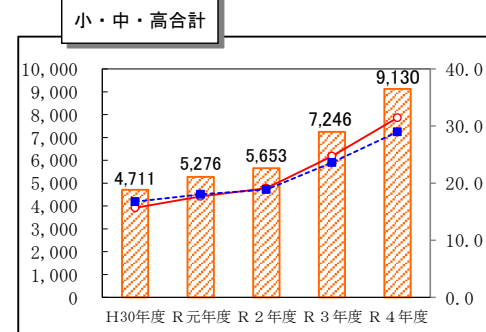
高等学校

区分	不登校生徒数		1,000人当たりの不登校生徒数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)	
平成30年度	1,199	16.6	16.3	
令和元年度	1,315	18.5	15.8	
令和2年度	1,219	17.5	13.9	
令和3年度	1,483	21.7	16.9	
令和4年度	1,693	25.1	20.4	



小・中・高合計

区分	不登校児童生徒数		1,000人当たりの不登校児童生徒数	
	広島県 (国公立)	広島県 (国公立)	全国 (国公立)	
平成30年度	4,711	15.7	16.7	
令和元年度	5,276	17.7	18.0	
令和2年度	5,653	19.1	18.9	
令和3年度	7,246	24.7	23.6	
令和4年度	9,130	31.5	29.0	



※ 凡例共通

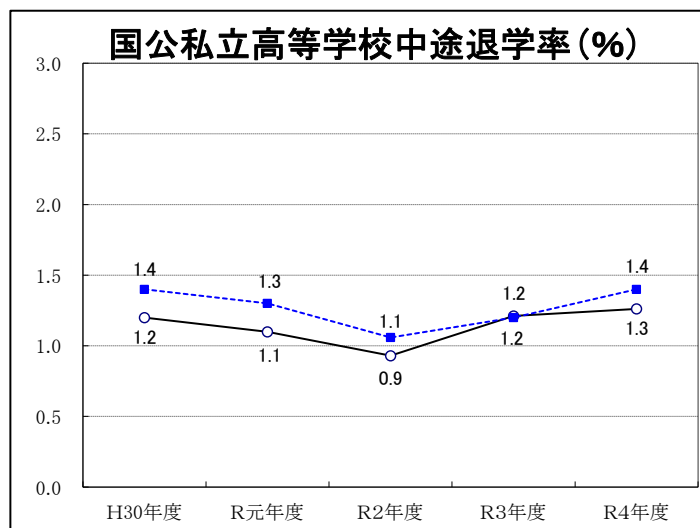
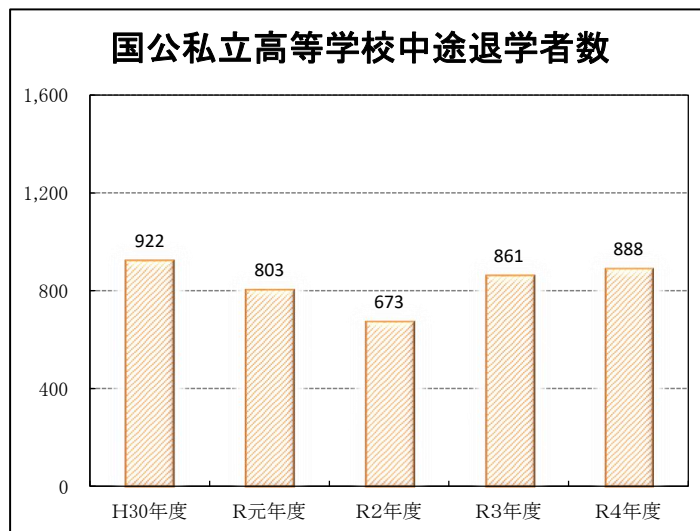
- 広島県（国公立）〈不登校児童生徒数〉
- 広島県（国公立）〈1,000人当たりの不登校児童生徒数〉
- 全国（国公立）〈1,000人当たりの不登校児童生徒数〉

(注) 1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小数第二位を四捨五入している。

中途退学

国公立高等学校（全日制・定時制・通信制）における中途退学者数等の年次推移（H30年度～R4年度）

年度	中途退学者数	中途退学率（％）	
	広島県 （国公立）	広島県 （国公立）	全国 （国公立）
平成30年度	922	1.2	1.4
令和元年度	803	1.1	1.3
令和2年度	673	0.9	1.1
令和3年度	861	1.2	1.2
令和4年度	888	1.3	1.4



※ 凡例共通

—○— 広島県（国公立）〈中途退学率〉
 -■- 全国（国公立）〈中途退学率〉

（注） 中途退学率は、小数第二位を四捨五入している。